



先生からもらった大切な本

私が手話と出会ったのは小学6年生の時。当時、友人のお父さんがろう学校の先生で、ある日遊びに行くと言渡されたのが「わたしたちの手話」という10冊の本でした。シリーズ本の初版で、私たち手話通訳者にとっては今もバイブル的な存在です。それをポンといただき、驚いたことを昨日のことのように思い出します。

手話は昔、ろう学校で使われることを禁止された時代がありました。しかし、友人のお父さんは手話で生徒と話す、ただ二人の教師だったそうです。

その先生が昨年亡くなられました。葬儀にはろう者も参列し、私は手話通訳をしながら、自分の原点が先生との出会いにあったことをしみじみと感じました。先生から譲り受けた本は、私の大切な宝物です。

問 障がい福祉課

☎ 72・3194 FAX 75・2270

広告